収録日：2025 年 5 月 20 日

直滑降ストリーム特別企画「県議と知事の紅茶懇談」は、群馬県議会議員をお招きし、親しみやすく身近なテーマでお話をするシリーズです。

それぞれの県議の人柄や趣味の話など、幅広く話をしています。議会でのやりとりだけではなかなか見えない部分も、お伝えできると考えています。

第９回目のゲストは、自民党の川野辺達也県議です。番組では、少年時代の野球の思い出や、事業経営のご経験、そして地元邑楽郡の発展にかける思いなどについて、お話を伺いました。川野辺県議の温かい人柄や、周囲からの厚い信頼が感じられる内容となっています。



第９回 川野辺 達也 県議（自由民主党）

山本一太群馬県知事（以下、知事）
群馬県知事の山本一太です。直滑降ストリーム「県議と知事の紅茶懇談」のお時間になりました。今回は第９回目ということで、自民党の川野辺達也県議にお越しいただいております。

川野辺達也県議（以下、県議）
よろしくお願いします。

プロフィール

知事　まず、川野辺さんのプロフィールをご紹介したいと思います。

選挙区は邑楽郡、会派は自由民主党、当選回数３回ということで、今回（撮影当時）、自民党県議団の執行部にも入られて、政調会長という非常に大事な政策を司る幹部になったということですね。出身地が邑楽郡板倉町で、趣味がドライブ、散歩ということです。

川野辺さんには、東邑楽地域の山本一太後援会の会長もやっていただいて、私より８つ年下なんですけど、非常に男気があって、とても信頼できる方なんです。

生い立ち

知事　まずは子ども時代のことからお聞きしたいんですけど、川野辺さんはどんな子どもだったんですか。

県議　邑楽郡板倉町の田園地帯、農業が盛んな地域で生まれ育ちました。当時は子どもの数も多かったので、みんなで集まって柔らかいカラーボールと竹のバットで野球をやっていました。あとは、野原も多かったので、自転車で走り回っていたような、小さい頃の記憶ですね。

知事　小さい頃はどういう子どもだったんですか。おとなしい子だったのか、活発だったのか、例えば、みんなのまとめ役だったのか、そこら辺どうですか。

県議　まとめ役っていうことはなかったと思いますけど、おとなしいのと活発なのが混ざり合ったような感じでした。いつも活発っていうわけじゃないんですけど、そういうようなイメージだったと思います。

知事　「三つ子の魂百まで」で、県議としてのスタイルにも通じていますよね。多弁ではないけど、いざという時には、ものすごい頼りになって、しっかり行動するっていう点で言うと、子どもの頃もそんな感じだったんですね。

県議　すごい良く言ってもらえると、そういう部分もあったのかなって思います。

知事　子どもの頃の思い出で、印象に残っていることってありますか。遊んだことや遠足に行ったことでも、何でもいいんですけど。ぜひお聞きしたいですね。

県議　あんまり印象がないんですよね、小さい頃のこと。だから、何も考えないで自転車で走り回っていたり、野球やろうって言われたらやったりする感じで。

知事　ペットを飼っていたとかはありますか。

県議　子どもの頃は雑種の犬を飼っていましたね。父親が好きで飼っていて、私は別に世話をした覚えはないんですけど。

知事　泰然自若とした子どもだったんですね。

県議　そうですね。今でも、ファッションとかそういうのも興味ないですし、流行りを追うこともないですし。

知事　なるほど。ある意味尊敬します。私と全然タイプが違うっていうか。

　小学校の時は野球をやっていたということなんですけど、中学校に行って、何かクラブ活動とかやりましたか。

県議　野球部に入りました。

知事　中学でも野球をやっていたんですね。川野辺さんは体格がいいですが、子どもの頃から大きかったんですか。

県議　大きい方でした。中学生の時は、真ん中よりちょっと大きいくらいでしたね。

知事　どのポジションだったんですか。

県議　ポジションはサードをやっていました。

知事　俊敏だったんですね。

県議　俊敏っていうか、普通でしたね（笑）。俊敏で上手な人は、やっぱり二塁手やったり、ショートやったり。

知事　いやいや。長嶋監督もサードですからね。打順は何番でしたか。

県議　その時によって違いましたけど、５番を打たせてもらうこともありました。

知事　じゃあ、ロングヒッターだったんですか。

県議　当たれば、そうですね。当たればですけど。

知事　当たればっていうのは面白いですね（笑）。

　その頃の、野球についての思い出みたいなのはありますか。大会にも出たんですか。

県議　大会は出ましたけど、上位にいけるようなチームではなかったです。邑楽郡の大会でも、決勝までいければいいとか、そういう感じでしたね。年代の格差があって、いい選手が揃っているときは県大会にも行っていました。

知事　県大会まで行っていたんですか。

県議　私の代は出られなかったんですけど、ちょっと上の代は行っていました。

知事　高校ではどうでしたか。高校も野球部ですか。

県議　高校ではやってないです。

知事　何をしていたんですか。

県議　アルバイトをしていましたね。

知事　高校生で、どういうアルバイトをしていたんですか。

県議　当時はガソリンスタンドとかで働かせてもらいました。

知事　それは立派ですね。ガソリンスタンドで、高校生からバイトをしていたんですか。

県議　高校生からやっていましたね。

知事　それ、自分でやりたいって言ったんですか。

県議　そうですね。

知事　お小遣いを自分で稼ぐみたいな。

県議　そのアルバイトで、学費から全部自分で払っていました。

知事　本当ですか。

県議　ある意味、自立の第一歩を踏み出したような形で。

知事　私は親のすねをかじって、高校も全然学費を稼いだりしなかったんで、ご立派ですね。

県議　でも、やらざるを得なくてということではなくて、自分でやりたいってことで。

知事　親御さんから、「うちは大変だから」とかじゃないということですね。親御さんは農業をなさっていたんですか。

県議　農業です。

知事　このエピソードは川野辺さんの人間性を紐解く上で、一つのヒントですよね。自分でアルバイトをして、高校の学費も全部払っていたんですか。

県議　お弁当は母親に作ってもらいましたが、学費とお小遣いはアルバイトから賄いましたね。

知事　素晴らしいですね。親御さんも喜んだっていうか。

県議　でも、当時は結構いましたよね。家庭の事情とかではなくて、自分で働きたいっていう同級生も、何人もいました。

知事　高校時代から、独立心が強かったんですか。

県議　独立心というか、あんまり頼らないというような感じでしたかね。

知事　その後はどういう感じでしたか。もう仕事も始められたんですか。

県議　JA の邑楽館林に就職しました。機械関係の工業高校を卒業したものですから、JA の機械センターに勤めさせていただきました。

知事　JA はどうでしたか。仲間もできていい感じでしたか。

県議　先輩方にも本当に面倒を見てもらって、今でもお付き合いさせていただいています。約 10 年勤めさせていただき、いい勉強、いい経験をさせていただきました。

知事　勤務経験は JA で、その後は、どこかで勤務されたんですか。

県議　JA を辞めた後、自分で運送会社を創業しました。

知事　なるほど。運送会社を始めるまでは JA におられたんですね。

　奥様とは JA で出会われたんですか。

県議　そうです。課は別なんですけど、同じ職場でした。

知事　別の課にいたけど、いいなと思っていたんですか。

県議　今から思うと、直接いきなりそういう風な感じではなく、他のみんなと一緒に出かけたり、そういう時だったかな。

知事　仲間で出かけられて。その中でも、奥様、いいなと思われたんでしょ。趣味はドライブとあるから、ドライブでデートとかされていたんですか。

県議　はい。いつもドライブっていうわけではないんですけど。

知事　休みが取れると、ドライブして。

県議　時間が取れれば、そうですね。そんなに遠出はしないですけど。ドライブして、食事して帰ってくるとか。

知事　プロポーズは川野辺さんからしたんですか。

県議　はい。私がしましたね。

知事　プロポーズの言葉とかは。

県議　どこで、どういう言葉を言ったかっていうのが、すみません、思い出せないですが（笑）。まぁ、何気なく、一緒になるっていうのは、そんな感じだったと思います。

知事　川野辺さんは、行動でみんなから信頼されるっていうか、普段はあまり言わなくても、いざっていう時は、きちっと決断できるとか、そういう方だから、あんまり言葉がなくても、奥様に伝わるってことなんですね、きっと。

県議　そうだったんですかね。

知事　これ以上奥様のことは追及しないようにします（笑）。

　JA で 10 年やって、運送会社を立ち上げたのはどういう経緯だったんですか。

県議　知り合いの運送会社でアルバイトをしながら、自分で中古の４トン車を購入し、そこの仕事をさせていただいたのが創業の始まりです。

知事　それをやっているうちに、これなら自分で会社を作ってやったほうがいいと思われたのですね。

県議　そうです。当時は、１＋１は２になるものだと思っていました。そうしたら、１＋１が３になることもあれば、マイナスになることもありまして。経営的な感覚がそんなにわからないまま創業して、法人を設立しました。

　なので、仕事をしながら毎日勉強で、いろいろなことを覚えていかなければならない状況でしたね。

知事　地域経済において、運送業はものすごく大事だと思っていますが、何が一番大変でしたか。

県議　零細的な企業は言われるがままの作業をしなければいけないことも多く、自分で日程調整できないのが辛かったですね。今はいろいろなところからお声がけいただけるようになったので、日程調整もある程度できるようになりましたが、当時は必死で仕事を受けていました。

政治家になった経緯

知事　政治家になった経緯も教えてください。

県議　運送業を始めて、地域の経済人の方から誘っていただいて商工会に入りました。その後、若いんだから商工業の代表として町の政治に携わってもらえないかと話をいただき、お役に立てるならっていうことで、町議会選挙に立候補し、２期やらせていただきました。もちろん農業も大事だけど、少しでも商工業の状況を町につなげるというのが政治への携わりの始まりです。

知事　８年やった中で、川野辺さんの性格だからそうなると思いますけど、周りからの信頼も厚くなって、そこで県議に出てほしいという話になったんですか。

県議　前任の県議が引退するから、自分の後継として出てくれって声をかけてもらって、県議に出させていただいた形ですね。

知事　県議になってお付き合いさせていただいて、政治活動でも、後援会長を引き受けていただいて感謝しています。

人生における信条

知事　川野辺さんの人生のモットーは何でしょうか。今日の対談でわかると思いますが、余分なことをごちゃごちゃ説明しないけど、すごく温かくて、しかも決めたらしっかり行動するみたいな方で、川野辺さんの姿が浮かび上がってきていると思うんですけど。

　人生において大切にしていること、モットーでも信条でもいいんですけど、何かありますか。

県議　いくつかありますが、一つっていうと、信用ですね。信用を常に心がけていて、これは仕事を始めてからのモットーになりますが。信用っていうのは、失うのは簡単なんですよ。ただ、それを作るのがものすごく大変で、今もこうしてやらせていただいているのも、少なからずとも信用して応援してくださっている方がいるから、こういう立場で仕事をさせていただいているんだなって思っています。

知事　なるほど。人の信頼を得るっていうことがとても大事だっていうことですよね。みんなから推されて県議になって、今３期目ですが、県議になっていかがでしょうか。町議とはずいぶん違うと思いますが。

県議　県議になって振り返ってみると、なった時はやっぱり不安も多くありました。ただ、10 年やらせていただいて、まだまだ力不足のところも大変多くありますけど、知事とこういう風に直接お話したり、県内の各種団体の長の方とか企業のトップの方ともお会いして、いろんな貴重なお話を聞かせていただけたりということは、県議でなければできないことだと思います。

　こういったつながりを地元に活かして、邑楽郡をはじめ、いかに良い地域にできるかだと思います。そういうことができる立場にいさせていただいていることが、一番大きいと思います。

群馬県の魅力 30 秒 PR

知事　最後に川野辺さんから群馬県の魅力を 30 秒で PR していただきたいと思います。

県議　群馬県の魅力は、自然も大変多く、そして産業も多くある県であります。住むには最適な県だと思っております。

　そんな群馬県で育って大変誇りに思っていますので、一人でも多くの方が群馬県にお越しいただければと思います。どうぞよろしくお願いします。

知事　ありがとうございました。

　川野辺さんは、あまり多くを語るタイプじゃないんですけど、本当に必要な時には、しっかり行動する方で決断力もあります。人から本当に信用される方で、その点は、私もしっかり見習っていきたいと思います。奥様を大切にされていて、皆さんも感じ取っていただいたんじゃないかと思います。本日はありがとうございました。

県議　ありがとうございました。